

兵庫県立柏原高等学校 インターアクト部

高校生ボランティア・アワード2019

「柏原町市街の観光車いすマップ作り」 活動概要

- 平成28年度に、右の写真に写っている車いすユーザーの生徒が入学・入部し、車いすマップ作りが本格的に始まる。
- 車いすマップ作りの進み方
 - 第1回研修（平成29年11月） 日本赤十字社兵庫県支部で紹介していただいたバリアフリーマップ関西・京都を主宰する山本英嗣さんから、バリアフリーマップの作り方の研修を受ける。
 - 第2回研修・第1回調査（平成30年5月4日） 上記山本さんから2回目の研修を受けて実際の調査も始める。
 - 第2回調査（平成30年5月27日）
 - 第3回調査（平成30年10月27日）
 - 第4回調査（平成30年12月15日）
- 2回の研修と4回の調査結果を受けて、車いすマップの完成へ向けて活動を続けている。
 - 身体障がい者用トイレの調査を今後実施予定

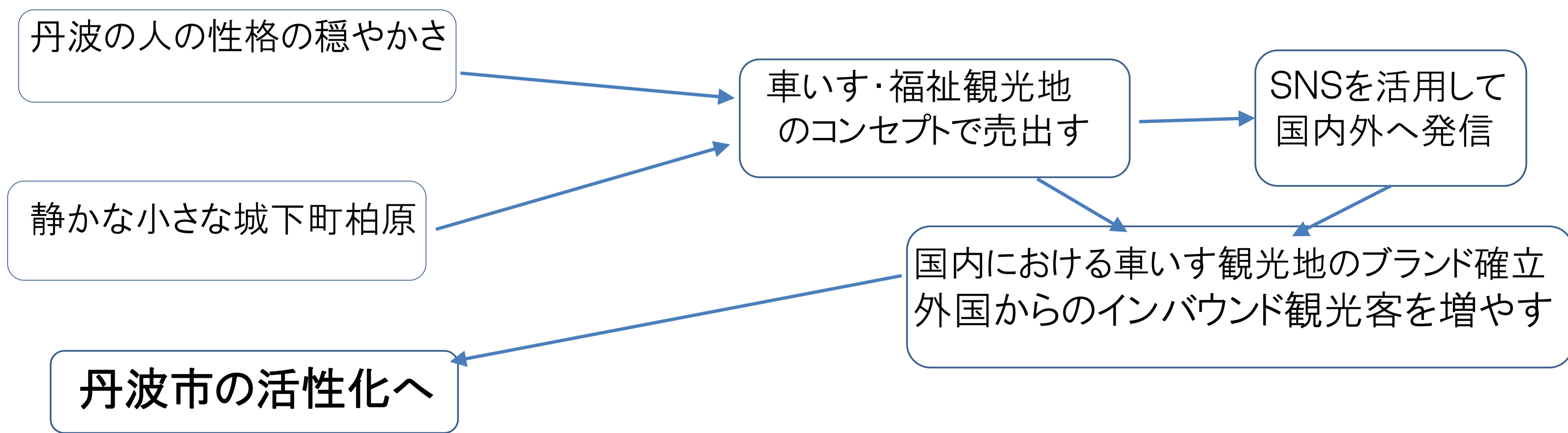


「観光車いすマップ作りで、町の活性化を」 活動の目的・志など

- ことの起こり
7年前、インターアクト部は「ひまわり号」を走らせる神戸実行委員会（兵庫障害者センター）主催の柏原町への車いす使用者の観光において、車いすを押しながら、街並み観光をおこなった時に、インターアクト部の生徒が、「わたし、こんな歴史的な町で勉強していたのだ、この町を多くの人に知ってもらいたい。」とつぶやいたことが、車いすマップ作りの始まりです。
- 観光地化への潜在力
丹波市在住の人びとは気持ちが優しく、障害者の人びとも安心して観光できる町である。「車いす観光地」・「ユニバーサルツーリズム観光地」としての潜在力がある町である。
- 障がい者も旅行を楽しもう
 - 障がい者もアクティブに旅行を楽しめる機会を増やしたい。
 - 外国からの障がい者の旅行者も受け入れて、丹波市民の世界への視野も広げる。

「丹波市柏原町が車いす観光地としてブランドの確立が市の活性化へ」

1 活性化へのフローチャート



2 ユニバーサル社会づくりに関する効果

- 昨年度、数度の新聞社から取材を受け、本活動が、多くの丹波市民の方々の知るところとなり、励ましや支援を得られるようになった。
- 篠山市で実施されたユニバーサルツーリズムの研究会に出席し、実践報告をさせていただいた。

「丹波市柏原町を車いす観光地・ ユニバーサルツーリズムの中心地へ」

- 丹波市民の民度の高さは、世界の人を受け入れ、感動させるに十分なものである。丹波市民の心映えに触れてもらいたい。
- 丹波市を旅することは、人を信じること、心を穏やかにすることの心地よさを体感できる。
- この感覚を、障がい者の旅行者に感じてもらいたい。



活動団体プロフィール

- 創部50年の伝統ある部
- 活動の柱
 - 地域へのボランティア活動
 - 国際理解・交流活動
- 近年、力を入れている活動
 - 柏原町観光車いすマップの作製
 - 多言語防災紙芝居による防災教育の啓発
 - 外国人観光客への英語での観光ガイド